

学 18 回生は医学部と合同で準備していた卒後 50 周年同期生会を新型コロナウイルス感染症防止の為に延期し、卒後 50 年を記念する事業として、記念誌を発行発行することとした。

同時に、卒後 50 年記念の記念樹をお茶の水校内に植樹することを大学事務局と相談し決定した。

また、新型コロナウイルス感染症対策拠点病院として後輩が活躍している母校への寄付金の贈呈も行った。

記念誌には、医学部 49 名中 18 編、歯学部 64 名中 38 編の原稿と写真が寄せられ、氏名順（あいうえお順）での掲載・編集がされているので読みながら教養時代に戻った感覚になる。これは、最終編集主幹の医学部・原 諭吉君の心遣いと推察する。50 年の間の逝去者は医学部 21 名、歯学部 17 名であるが、記念誌には写真ギャラリーに多くのカラー写真があり、なつかしい亡き友の姿を見いだせる。

昨年 12 月から本年 1 月末までに寄せられた原稿をインターネットで校正して各自へ発送が完了したのが 3 月末であった。

医学部同期生との 10 年ぶりの共同作業をしているうちにお互いの距離感が急速に接近し、記念誌の発刊の後、医科・歯科同期生の合同名簿を作成することが諮られ、現在作成作業に入っている。

我々の記念誌は大学の図書館と、同窓会に寄贈しており、御一読戴ければと思う。（文責 大串貫太郎）

